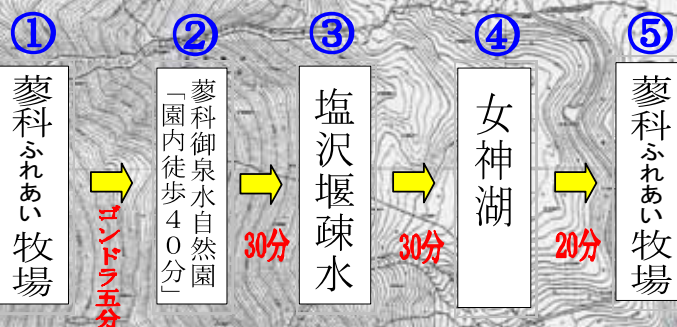


塩沢堰疎水と白樺高原ウォーキング



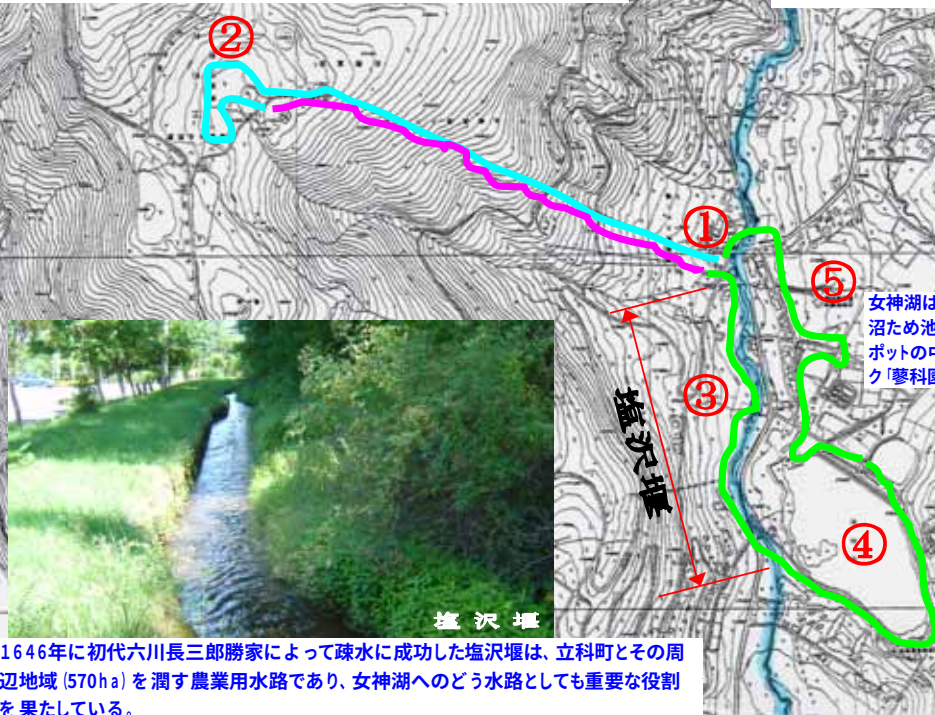
江戸時代初期に開削された「塩沢堰疎水」は、弁天神湧水を源泉として、ほぼ自然水路（土型・石樋・石組み）により流れている。当地は、年間200万人が訪れる白樺高原の観光地内でもある。当水路は、良質な米・りんご栽培が盛んな地域で農業に欠かせない重要な水源である。塩沢堰なくして立科町の発展はない。さわやかな高原を流れる、清らかな疎水と女神湖畔を散策してみませんか。



御泉水自然園は、標高1830mに広がる多種多様な高山植物や樹林を整備された散策コースにより森林浴が体験できます。



蓼科ふれあい牧場では、放牧された（牛・羊・ウサギ）と触れ合わせることができるほか、御泉水自然園をつなぐ Gondola リフト から大自然が一望できる。



1646年に初代六川長三郎勝家によって疎水に成功した塩沢堰は、立科町とその周辺地域（570ha）を潤す農業用水路であり、女神湖へのどう水路としても重要な役割を果たしている。



女神湖は、昭和41年に有効貯水量260,000m³の農業用ため池（赤沼ため池）として築造され、現在は、名称を「女神湖」として観光スポットの中心的存在として親しまれ、近くには緑豊かなポケットパーク「蓼科園地」で散策ができます。

